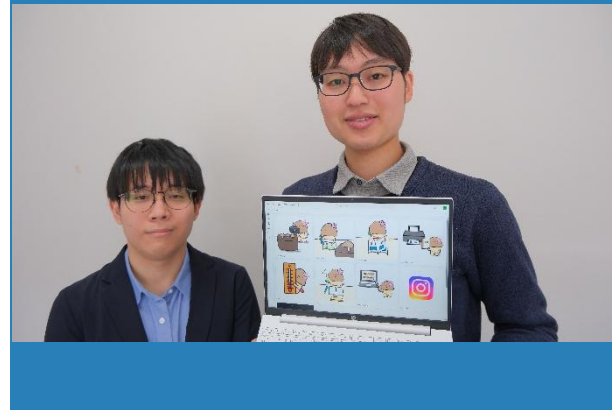


東日本大震災で被災した福島県浜通りを中心に奉仕活動をしている東北大学のサークル「東北大学福興youth」は、福島県の農産物や同県三春町の魅力を発信する「Myしいたけプロジェクト」に参加している。町内でシイタケを栽培する(有)M&Aふぁーむ・わたなべと協力し、シイタケの生育過程を観察できるアプリを開発した。同サークルの土明良さん(21)は「農産物を身近に感じられる教材として教育機関への利用を進めている。福島農業へ関心を抱いてもらえると嬉しい」と語る。

開発理由は福島第一原発事故による放射性物質の影響で、シイタケ菌床に県産の木材が使用できなくなったこと。M&Aの再び県産木材で栽培したい想いに共感し、再興までの過程と生育過程を公開する手段として2023年9月から開発に着手。試作品は福島県内の高校でモニター調査し、修正を加えた。アプリは30秒毎に施設の画像が更新され、生育状況や日記を記載すると画像やハウス内の温度、湿度が併せて保存される。同サークルの三瓶雄大さんは「現在は仙台市内の保育所へ利用を提案している。日記づけは単調になりがちなので、園児たちが飽きない工夫が必要」と改善点を挙げた。

【記事執筆】 宮城県農業会議

福興youthの三瓶さん(左)とアプリホーム画面を開く土さん



設置カメラは4台。割り当てられた菌床を閲覧できる。



アプリ内で使用できるキャラクターたち

